

F D ACULTY DEVELOPMENT

I N V I T A T I O N

山梨大学教育人間科学部

第 8 号

Jun. 23, 2004

FDの充実に向けて

学部長 堀 哲夫

教育人間科学部における FD (Faculty Development) ワーキンググループは、2002 年 4 月に、主として教育の質を向上させることを目的として発足しました。以後、二年が経過しました。その間に行われたことは、「初任者懇談会」、「授業研修会」、「FD Invitation」の発行などをあげることができます。何よりも、ワーキンググループの労を多としたいと思います。また、こうした事業に積極的に関わってくださった先生方にも心からお礼を申し上げます。ありがとうございました。

今後は、FD の取り組みをさらに充実させていく必要があると思います。たとえば、先生方が担当されている授業を改善するための具体的な取り組みに関わる提案と検討、大学自己評価・点検委員会から出された授業評価報告書の課題に関わる学部としての検討、学外講師を招聘しての研修会の実施、等々があげられます。

言うまでもなく、教育の質の向上は教員の能力開発と深く関わっています。教員の能力開発は研究と教育の両面から行われる必要があります。われわれ一人ひとりの能力開発は、学生の資質の向上のために必須の要件の一つであると思います。

そのためには、とりわけ授業と関わって言えば、学生が今どのような状態にあるのかを知り、それに対して主として授業において教師がどのように関わり、どれだけ学生を変容させることができるかにあると思います。たとえば、教師が受講前と後の学生の質的変容の確認をどのように行っているのか、確認を行っているならばそれを自分の授業にどう活かしているか、などが重要になってくると思います。

FD の質的向上のために、先生方のさらなるご協力を願ってやみません。



初任者懇談会開催

平成16年6月16日（水）に初任者懇談会が開かれた。着任後1年未満の5名が参加された。堀学部長からご挨拶をいただいた後、吉田学長から山梨大学の課題等のお話をお聞かせいただいた。人事課から法人職員の服務と倫理、国際研究協力課から科学研究費等について解説していただき、入試・教務委員長からそれぞれの委員会の業務内容が説明された。法人化に関する話題や研究費に関連した件などについて質疑応答があった。最後に原庶務係長の案内で、保険管理センターや附属図書館を見学し、ふだんは立ち入ることのできない工学部T1棟の屋上からの眺めを楽しんだ。

時 間	研 修 内 容	担当者
13:00～13:10	学部長の挨拶	学部長
13:10～13:40	山梨大学のこれから	学長
13:40～14:00	法人職員の服務と倫理、職場におけるセクシャルハラスメント、他	人事課長
14:00～14:20	外部資金・科研費等	国際研究協力課長
14:20～14:50	各種委員会の概要（入試・教務） FDの現状と課題、授業評価	入試委員長、教務委員長 WG 委員
14:50～15:50	キャンパス散策（本部事務棟・保険 管理センター・図書館・附属学校園）	庶務係長
15:50～16:10	意見交換	
16:10	閉会の辞	WG 代表

参加者と、事務側からみた今回の会の感想を掲載します。

（I）

参加者の感想

小池健二（数学教育講座）

私にとって山梨大学は、大学の教官としての初めての職場です。着任してから既に1年近く経ちましたが、未だに分からない事だらけです。今回の懇談会は、大学の将来像や今後の課題、就業規則、重要な委員会等、幅広い内容を手短かに説明して頂け、とても有意義なものでした。

安達隆史（理科教育講座）

1. この企画は良いことと思います。講師の方々に感謝いたします。
2. 各規則を「官」という文字を「員」に変えただけで、とりあえずしのごうという姿勢がみられがちですが、大丈夫かなという印象です。
3. 集金力とか学生は顧客であるというようなお話がありましたが、規則の点でそれらを反映するには時間がかかるように感じました。慣性が大きいですから軟着陸をするには、あるていど仕方のないことでしょう。
4. 日常のこととしましては、教務関係で、教員と事務職員の権限・責任の仕分けを説明してほしいと思いましたが、時間がとれなかったようです。

寺崎弘昭（学校教育講座）

着任して8ヶ月が経過しましたが、まだ学部や大学の全体がどんなふう to 動いているのかわからないまま、初歩的な質問をしているんな方に迷惑をかけることになっていました。今回、大学・学部の基本的な事柄についてお話をうかがう機会を得て、やっとおよその輪郭が、当事者感覚を伴って把握できたような気がいたします。お話は時間的にコンパクトであり、その後工学部屋上からの見晴らしも含め、キャンパス案内までしていただき、恐縮するとともに感謝



申し上げます。私にとっての貴重なスペースの存在までご教示いただき、ほんとうに貴重な情報を得ることができた 3 時間でした。(ほんとは、そのままビア・ガーデン、というのもよかったかもしれませんが。)

長島礼人（理科教育講座）

私を含めた新任者のために研修会を開催してくださいました FD 検討 WG、また実際にレクチャーしてくださいました方々にお礼申し上げます。A4 用紙で 19 頁におよぶ中期目標・中期計画一覧表を配布の上で、独立法人化後の大学を取り巻く状況は安閑としておらず、競争的な資金獲得にむけて努力して欲しい旨のお話を学長より伺いました。これと関連したお話を国際研究協力課長からも伺い、意思強く研究を遂行していかなければの思いを新たにしました。また人事課長からは山梨大学教員としての行動規範について具体的案件に即してご説明いただきました。勢田先生と寺戸先生からはそれぞれが委員長を務めておられる入試委員会と教務委員会の活動内容等についてご説明を頂きました。以上のような多岐にわたる内容をコンパクトにまとめてお話を伺う事が出来、随分と大学への理解を深めることが出来たと思います。大変有意義な研修会に参加させていただき有難うございます。

藤原真史（共生社会講座）

着任以来、見よう見まねで新しい環境に慣れようと努力はしてきましたが、個人の取り組みではやはり一定の限界もあります。今回、着任から一定期間内の先生方と共に大学の運営に関わる具体的なお話を伺う機会を得、吸収すべきところ多々ありました。時間があればさらに様々なテーマについてお話を伺いたいところでしたが、日常業務から離れて大学を見つめ直すよい機会になったと思います。

新任者懇談会について

庶務係長 原 哲夫

新しく着任された先生たちに大学を知ってもらうよい機会と感じました。また参加された先生方からも好意的に受けとめてもらえた点がよかったと思います。

学内の案内をさせていただきましたが、ふだん行ったことがなかったり、あまり使ったことのない場所も、結構多いのだと再認識しました。事務方はどこにでも行きますので、これからもどんどんおたずねください。広く大学を知ってもらうのは意味があると思います。

反省点としては、(1)もう少し時間があるとよい、(2)説明者の説明が堅く、新任者にはわかりにくい、(3)教育人間科学部の庶務としても話す時間が欲しい、(4)新任者へのガイドブックのようなものがあるとよい、があげられます。

それはともかく、学長や人事部長、研究課長らと直接、話ができる機会が設けられてよかったと思います。

他大学のFDの試み ―横浜国立大学の巻―

よその大学は、いろいろとFDの実験を試みているらしい。専門家の講演、研修会や教員の授業公開だけがFDの定番メニューと思っていたが、最近は多様な展開を見せてきた。今回は、その一例として、横浜国立大学教育人間科学部FD委員会が平成15年度に試みた「授業改善懇談会」についてみてみよう。この懇談会の新しさは、学生から直接、授業改善の要望を聞くという点にある。学生から要望を聞き、解決可能なものから実行に移し、授業改善に役立てようというのである。

懇談会のメンバーは、教員6名、学生25名。学校教育課程の1・2年生を対象に実施された。教員代表は、学部長、学校教育課程長など学部運営に責任の持てる者。具体的な実施方法は、学生と教員を3グループに分け、学生から自由に専門科目と教養科目について要望を出してもらう。

学生からの要望としては、つぎのものが挙がった。(1)時間割や受講に関するシステムについて、(2)クラス編成、(3)授業内容に関すること、とくに小学校教科専門科目や教養教育科目が専門の授業と同じ内容であることや、小学校教科専門科目と初等教科教育法の授業内容を連携させてほしいこと、また初等科教育法では、実践的な力を育てるような内容を教えてほしいことなどである。さらに(4)授業方法や(5)成績評価についても要望が出された。

この横浜国立大学の報告を、私は今年3月に開かれた第3回京都大学高等教育研究開発推進センター主催の研究会で聞いたが、横浜国立大学の報告者は懇談会の設立趣旨をつぎのように説明していた。従来の授業改善策の検討は教員だけで行ってきたが、それでよいのかという反省があった。学生は実践的だし、教員は理論的である。そのギャップを埋める必要があると感じた。カリキュラムの検討は講座単位ではなく、学部全体の視点に立つて行う必要がある。学部長が出席する意義も、そこにある。問題は学生代表の選び方であるが、いまのところ学生に任せているということであった。

この授業改善懇談会の意義は、従来の学生による授業評価アンケートが評価者である学生にフィードバックしておらず、授業改善の即効性・実効性という点では必ずしも機能していない現状を補う点にあると思う。授業改善策やカリキュラム検討が教員だけで行われている現状を見ると、学生の生の声を聞くことは改善に向けて一種の約束を交わすことになるから、授業改善の実効性という点ではかなりの成果が期待できるであろう。

(〇)

第1回学部FD研修会

日時：平成16年6月30日（水）

13:15～14:45

場所：教育人間科学部J号館A会議室

提案：「私の授業改善への取り組み」

堀 哲夫 先生（理科教育講座）